

～昨日の風 明日の風～ 経営コンサルタント 独白録

【第53回】 黄金の篩ふるい



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター（福岡市、URL <http://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

いよいよ月が明けると平成30年です。30歳以下の人はすべて平成生まれと言うことになります。「明治は遠くなりけり」という言葉と同じようにすでに昭和も遠いものになりました。社会や組織の中で、古い価値観と新しい価値観のせめぎ合いがこの30年間続いてきたのですが、どうやらこの辺で決着がつきそうです。

社会変化の加速度

ここ2年ほどのうちにテレビCMの中身がずいぶん変わってきたことにお気づきでしょうか。自動車のコマーシャルは自動ブレーキが主流で、前方の障害物を検知して自動的に止まるというものでした。最近では、サイドラインを踏み外さないように自動制御したり、駐車スペースに自動的に車が止まる仕組みなどが流されています。10年前は夢物語だったような出来事が、現実世界で実現されつつあります。

音声認識機能も劇的な変化を迎えているようで、端末に話しかけるだけでLINEの送受信ができたり音楽をかけたり観たいと思っているテレビ番組を自動的に選んでくれるようになりました。

2020年の東京オリンピックを控え、国内では国際的なキャッシュレスシステムの導入が一気に進むようです。諸外国では既に現金の取引が減少していて、ほぼ全ての商品購入がICカード等で処理ができるのです。外国人観光客の不満解消の意味も含め、行政サイドが主導して一気にキャッシュレス社会が生まれます。

篩ふるいにかけられる個人と組織

篩ふるいとは、粉・砂などの細かいものを網目を通して落とし、分別する道具のことです。そしてそれは実に不思議な道具で、目的によって動作は同じですが、結果が全く違います。ある一定の規格よりも大きいものを残したい場合には、網に残ったものが目的となります。逆に、大きなものを排除し細かなものが欲しい場合には、落下したものが

目的となります。つまり目的や使い方によって真逆の効果を発揮する道具です。

来年からは、そうした篩に個人や組織がかけられてしまうのではないかと考えています。「働き方改革」による労働に対する考え方の変化。男女雇用機会均等法の厳格運用によるジェンダーフリーの推進。テクノロジーの急速な発展による情報処理、物流活動等の大変化。何よりも国際化の進展により、グローバルな要求に対する規制緩和が撤廃され、世界中を相手に戦わなければならなくなります。既にそうした萌芽は至る所で目にすることができます。

再構築の必要性

これからは、一度自分たちの経営要素を細分化し、細かい網の目をくぐらせ、それを業界や地域、事業規模に合わせて再構築する必要があります。その作業を怠り、従来型の意識や仕組みで次の時代を乗り切ろうとしても時代や社会には受け入れられません。例えば、キャッシュレスでなければ入れないレストランも出てきています。外国語で対応しなければ顧客を失ってしまう業界も出てきています。こうした話をする時、鼻の先で笑う経営者もいないわけではありません。しかし、高速道路の「ETCシステム」の普及の速さを考えれば、笑って済ませられる問題では無いはずで

時代変化は、我々が思っているよりもはるかに速いことを理解し、一度「網の目」をくぐり抜ける作業を経なければ、時代に対応していけないと考えています。まず個人として時代変化を認識しましょう。そして全社一丸となってその変化に対応できる組織作りを進める必要があります。「黄金の篩」が目の前に置かれています。

本年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。皆様、良いお年をお迎えください。